

<ローカル商品・農産物情報>

2011年10月31日

※裏面もご覧下さい。

11月供給の農産物の「放射能測定結果」をお知らせします！

「地元の新米」の「放射能測定結果」をお知らせします！

～「コシヒカリ」も核種検出限界「1Bq/kg」で測定の上、

「玄米」「白米」共に「不検出」のものをお届けします！～

私たちは各生産者と共に汚染に立ち向かい、とりわけ毎日口にするお米については、放射性物質の測定も「検出限界」を（通常の「10Bq/kg以下」ではなく）より厳しく設定し（核種「1Bq/kg以下」に設定）、その上での「不検出」を目指してまいりました（既に前回の『情報』でお知らせした通り、「ひとめぼれ（生産者：大河原正信）」については「不検出」の結果を得ることができました）。

「地元の新米＝コシヒカリ」について、一部「玄米」についてはわずかに「限界値」を超える微量のセシウムが検出されましたが（生産者：大河原正信、水野一夫）、糠部分で「白米」より高い濃度にあることが知られていること、あるいは「白米」とそれ以外の部位の比率は「7；93」などと報告されていることから、「白米（精米）」については何の問題もなく「不検出」のものをお届けできます。

また、比較的高濃度の汚染地域として、最も心配された須賀川市仁井田地域（生産者：森文男）の「コシヒカリ」については、生産者の必死の努力もあって、逆に以下の通り「玄米」でも「不検出」の測定結果を得ることができました。

その意味でご案内する「コシヒカリ」は、「玄米」は生産者：森文男さんよりお届けし、他生産者よりご案内する「白米」と共に、安心して購入・お召し上がりいただけるもの（限りなく「ゼロ」に近い「不検出」のもの）をお届けします。

単位：ベクレル/kg（検出限界：核種1ベクレル/kg）

商品（対象試料）	生産者名	産地（場所）	採取日時	測定結果			
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	合算値
コシヒカリ 玄米	大河原正信	須賀川市 （露地栽培）	10月10日	検出せず	1,1Bq/kg	1,4Bq/kg	2,5Bq/kg
コシヒカリ 玄米	水野一夫	須賀川市 （露地栽培）	10月14日	検出せず	検出せず	1,3Bq/kg	1,3Bq/kg

※以上の産地は「白米」でお届けします。

単位：ベクレル/kg（検出限界：核種1ベクレル/kg）

商品（対象試料）	生産者名	産地（場所）	採取日時	測定結果			
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	合算値
コシヒカリ 玄米	森 文男	須賀川市 （露地栽培）	10月15日	検出せず	検出せず	検出せず	—

※「玄米」は「須賀川市・森文男さん」よりお届けします。

※尚、「検体（対象試料）」はもっとも危険と思われる各地の田んぼより採取しての結果です。

今回の「不検出」の理由について、一つには、報道もされているように産地の多くは稲へのセシウムの移行・吸収がしづらい「粘土質」の土壌であること、そして二つには、何より生産者の除染の努力があり、「生産者交流会」での測定や実験結果として、その土壌からの除染の効果が確認できた貝化石肥料や微生物の力による堆肥の活用など、その意識的な努力が実った結果でした。

生活協同組合あいコープふくしま

～11月より供給の「地元のりんご・ふじ」をはじめ、

「大根」「キャベツ」「白菜」「新そば」など全て「不検出」です！～

毎週の『ひまわり』と共に、放射能汚染に立ち向かう私たちと各ローカル生産者の姿勢や考え方など随時お伝えしています。各生産者によって検査機関は異なりますが、ゲルマニウム半導体検出器によって「出荷段階」で明らかになった11月供給の農産物の放射性物質検査の測定結果（数値）について、引き続き以下の通りお知らせし、供給してまいります。

単位：ベクレル/kg（検出限界：10ベクレル/kg）

商品（対象試料）	生産者名	産地（場所）	採取日時	測定結果			合算値
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	
りんご（ふじ）	吉田果樹園	須賀川市 （露地栽培）	10月17日	検出せず	検出せず	検出せず	—
大根	おおもとG	三春町 （露地栽培）	10月10日	検出せず	検出せず	検出せず	—
キャベツ	おおもとG	三春町 （露地栽培）	10月 3日	検出せず	検出せず	検出せず	—
白菜	おおもとG	三春町 （露地栽培）	10月17日	検出せず	検出せず	検出せず	—
そば	そば振興組合	郡山市湖南町 （露地栽培）	10月 5日	検出せず	検出せず	検出せず	—
大根	あぶくま GAP	郡山市 （露地栽培）	10月10日	検出せず	検出せず	検出せず	—

※今回の「不検出」の結果とその理由について、幸い各産地の環境放射線量、及び土壌汚染の数値も低く、作物だけでなく使用している堆肥も放射性物質の検査を行ない、それらの数値結果（不検出）を確認の上栽培してきました。

※11月以前より供給している『各種トマト』（須賀川市・岡部洋一）、『さつま芋』『里芋』（成田市・堀越一仁）、『小松菜』『みず菜』（須賀川市・柳沼孝政）、『ねぎ』『じゃがいも』『かぼちゃ』（三春町・おおもとG）、『野菜セット・愛菜箱』（福島県愛農会）は、今後も全て「不検出」のものをお届けします。

※また、既にご紹介した通り、各生産者はその「不検出」を目指し、これから旬を迎える“葉物野菜”についても、今季は「ハウス栽培」を中心に行ない、ハウス内でも出入り口周辺や外周りに近いところは畝を作らず、できる限り密閉したハウス内中央部に作付け・栽培を行なっています。

※『地元のりんご・ふじ』（生産者：吉田果樹園）については「ふくしまの冬ギフト」でもご案内しています。

吉田果樹園では、やはり「生産者交流会」で測定、実験結果として効果のあった「貝化石粉末」による肥料などで土壌からのセシウム除染などを行ない、これまでも「さくらんぼ」「桃」「ぶどう」など「不検出」の果物を供給してきました。今回の「冬ギフト」でも、再度収穫直前に検査を行ない、安心できるりんごを「検査結果報告書」を添えてお届けします。

<お詫びとお知らせ>

「11月3回」ご案内の「地元の大根」につきまして、収穫量不足のため

「おおもとG」から産地を変更し、「あぶくまGAP」よりお届けします。

～価格も変更（131円から168円へ）となりますので、

ご注文の際はご注意・ご確認をお願いいたします。～